
ふたりぼし

ルコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふたりぼし

【Nコード】

N5700Q

【作者名】

ルコ

【あらすじ】

お姉ちゃんの出産を家族一家で楽しみをしていたのに、異世界トリップをしてしまった玉屋美紀。

やさしいオジーさんに拾われて、お城で女中の仕事と飼育係などをまかされた玉屋美紀は、日々仕事に精を出す。

ちょっとラブコメありの、ほのぼのとしたお話です。

その1（前書き）

誤字脱字がありましたら、そつと教えて下さい。

その1

まいごのまいごのこねこちゃん、あなたのおうちはどこですか。

はい、知りません。頭の隅っこで、昔歌った曲がぐるぐると回っている。

気がついて、目が覚めたら泥だらけになっているわたしと見たこともない景色。

これって、紛れもなく迷子だよね。ってもう、迷子のレベルじゃないと思うんだけど。

涙目になりながら、少し冷静に考えてみる。

この日は、家族一家待ちに待ったお姉ちゃんの出産日であった。

お父さんも、お母さんもみーんな真剣なまなざしでお姉ちゃんを見つめている。

これじゃあ、なんか見張られているような気がして逆に生めないんじゃない。。。。

っと心の中で思いながら、わたしも応援していた。

お姉ちゃん頑張れ。あとちよつとだよ。

しだいに、みんなの視線も熱くなり本当は辛いのはお姉ちゃんなんだけどこっちのほうがはらはらして大変なんじゃないかと思う。これで風邪をこじらせたら大変だ。それにもうわたしの両親老けてるし。。。。

いけないいけない。そんな事を思ったらきつと誰だって怒るよ。

「美紀、ちよつと席をはずしてくれない。ちよつと先生たちとお話があるのよ」

「はぁーい」
さっきまで熱い視線でお姉ちゃんのことを見ていたのに、急に青ざめた顔をしているような。
すぐに席をはずすと、とんでもないことに階段から転げ落ちていた。
うー・・・なんか地味に痛い。
体を起こそうとしたとき、まばゆい光がわたしを包んで、わたしはそのまま意識を手放した。

こうして、気がついたらもうここはどこおーい。なのであった。
迷子じゃなかったら、それともあれですか？
サバイバル生活かホームレス生活をやれとでも言うのですか。
空き缶を売ったり、魚を釣れとでもっ！！

これ絶対、半年でもう死ぬとしか考えられないんだけど。
ホームレスとかやったことのない人間にはこれは、無謀すぎる。
心が折れて、目に大粒の涙を浮かべてこの先自分はどうなるんだらうと想像してみる。

なんか異体のしれない怪物に追いかけてられて、最後は食われるか餓死するかのどちらか。

考えるだけでも、怖いし恐ろしい。
もしこれで想像通りだったら、たぶんこの世の終わりだろう。

最悪な考えは、頭の中に素直に入ってくるのにいい考えはまったく頭の中に入ってこない。
ポジティブシンキングでいこうっ。自分に言い聞かせる。

じゃないと今でも大泣きしそうぐらいに、へこみまくっていた。

「その君い、そこでなにしてるんだい？」

茂みの中からごそごそとやってきた、熊・・・じゃない人間。それも特大の大きさ。

がわたしに向かってやって来る。

なっなに、っていうかどんだけ大きいの!?

「おやおや、ここでわ見たこともない子だねえ」

それ、そのまま言い返してあげたい。

なんなんですか、その身長。3メートルは絶対あるって。それになんですか、その格好。

まるで、畑を耕すオジーさんじゃないですか！。でも、以外と府陰気は優しいそう。

「ここはアイリス様のお庭だよ。勝手に入ってはだめだよ」

かってにって・・・。好きでここに居るわけじゃないし、はやく自分の家に帰りたい。

「あのお・・・ここは一体・・・」

勇気を出して聞いてみる。以外と答えてものあまり聞きたくないのだが。

「ここは、ムールだよ。ここらへん全部アイリス様の土地なんだ」

ムール？

ムールってどこだよ・・・。

そんな国、聞いたことも見たこともない。
頭の中が壊れた瞬間、

「どっこだここはぁーーーーー」

とおどろいているオジーさんをよそに大声でわめいた今年初の春。

わたし、玉屋 美紀 14歳。

とほづにくれまくった、春であった。

シヨボーン。

その1（後書き）

楽しく読んでくださったら、わたしはうれしいです。

これからもよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5700q/>

ふたりぼし

2011年10月8日15時56分発行